神奈川県立相模原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和６年度 神奈川県立相模原支援学校 第３回学校運営協議会		
開催日時	令和７年２月 25 日（火）13:45～16:30		
開催場所	相模原支援学校 実習棟 ２階 縫製室		
出席者	学校運営協議会委員７名（２名欠席）、本校職員：事務局 13 名		
問合せ先	神奈川県立相模原支援学校　副校長　鈴木　智子 電話 042-778-0818　ＦＡＸ 042-778-4957		
下欄に掲載するもの	議事録	公開を概要とした理由	

審議・会議経過

（事務局）本日の日程・配付資料の確認

１　会長・学校長挨拶

２　学校評価部会

●令和６年度学校評価（校内評価）について

各グループ・学部・分教室　年間評価及び次年度に向けて資料とスライドをもとに報告

資料１　パワーポイント資料参照

＊教育企画グループ

・「各教科会がシラバスの作成などにより系統性な教育の目標や内容等の整理」「個別教育計画研修等による作成の意義や方法等の理解、共有」「校外学習等のねらい・内容・場所等の整理」「50 周年プロジェクト」に取り組んだ。

・「50 周年プロジェクト」では、事業の計画・運営の実施、PTA や関係機関と連携し合い、記念授業（「駅周辺の美化活動」「にじバードの起き上がり人形制作」など）、ポスターや記念紙など児童・生徒主体の取組を行った。

＊学習支援グループ

・通学支援に関するガイドライン作成資料７。個別教育計画に基づき、将来を見据えたステップを全教員で共有し、指導に生かした。

・自分専用端末活用ガイドラインを作成し資料８、児童・生徒支援や不登校支援に活用を行った。年度が変わって、教員が変わっても実践事例を共有できるようにする。

＊安全管理グループ

・「環境」では、オフィス改善工事に向けての準備・整理を行った。

・「食育」「防災」では、シラバスの中のどの授業に位置付けていくのか検討する。

・「会計」では、学部・学年費低額化への取組、県費・私費の負担区分の明確化に取組む。

＊支援連携グループ

・職業の授業内容の見直しを図った。今後は地域の中での職業活動実施に向けて取り組んでいく。

・進路だより「コンパス」で進路の情報を発信している。　資料 11　参照

・資料６　教育相談活用ガイド（相談シート）の見直しを行った。

＊小学部　パワーポイント資料参照

・校外学習のねらいを整理。次年度は段階的にステップできるよう取り組む。

・夢の丘小グランド利用や読み聞かせ「てぶくろの会」との協働等、今後も地域への参画

	を目指す。 ・居住地交流については、１回目は担任付添で実施。２回目以降は本人・保護者で参加を行った。16 名、延べ 29 回実施した。 ・働き方に応じた時間の設定については、会議日程の変更を行い、勤務時間が短い教員も会議に参加することができるようした。 **＊中学部**　　パワーポイント資料参照 ・木曜日の下校時間が早まり、その時間を使い打ち合わせや研修を実施。 ・子どもの様子から系統立てて教育の目標や内容を整理した。次年度はケース会議を充実させる。 **＊高等部**　　パワーポイント資料参照 ・系統性を意識した指導目標・教科内容を整理すると共に、教育活動の改善を図る。 ・自分専用端末を朝の会までの隙間時間等に活用している生徒も見られた。 ・原当麻周辺の美化活動で地域の皆様から励ましのお言葉を頂くこともあった。 **＊分教室**　　パワーポイント資料参照 ・生徒の意見や感想を端末を利用して直接収集するシステムを実施し授業内容の見直しの参考にした。 ・本校とのオンライン授業や休業中や不登校生徒への支援にも活用等、ICT 機器を積極的に活用した。 ・地域の事業所と連携した授業を実施。（卒業生の力を活用） ・橋本高校とのコミュニケーションボードの活用により、間接的に接することができてきた。今後は生徒会を中心にできると良い。 ●学校評価アンケートについて　　資料２参照 **＊令和６年度　関係機関の皆様に向けた学校評価アンケート集計結果** **→回答数８/49 事業所（回答率役 61%）昨年度：５/49 事業所** 回収率の低さについて、今後アンケートの実施・回収方法について検討が必要。 ・「関係機関の方からの相談等について、丁寧に対応されている」については、高い評価をいただいている。 ・「学校に期待すること」については、「教職員との連携の充実」「学校からの情報発信の充実」が多かった。本校で開催する研修会等に参加していただき、本校の取り組みを共有していくことができると良いと考える。 **＊令和６年度　相模原支援学校　学校運営に関する評価アンケート（教員）集計結果** **→回収率 98%** ・自分専用端末についは、電子黒板も使いながらの授業に期待したい。 ・老朽化については、随時修繕を行っている。 ・「わからない、知らない」と回答する人も一定数いる。様々な働き方の人が増えてきていて、情報が伝わりにくい部分もあるのかもしれないが、自身の学部、グループだけでなく、他の学部やグループの取組にも目が向けられるよう、「知らない」ことのないように、情報共有、情報発信をしっかりしていく必要がある。 ・今後取り組みたいことについては、教職員の専門性・チームワークの向上が一番多い。学習指導や支援の方法、自分専用端末の活用方法など、自身のスキルアップに努めた

い、学年やクラスの先生方と連携を取り合って学年、クラス運営をしていきたいと思っていることの現れではないか。

＊令和６年度　相模原支援学校　学校運営に関する評価アンケート（保護者）集計結果
→回収率 53%。昨年より低下。

・「進路に関する情報を発信していると思いますか」が一番高い評価。見学会や進路説明会、進路だよりの発行など、日頃から丁寧に進めてきた評価だと思う。
・「自分専用端末の活用」については、高等部は、生徒が端末を購入しているということや、長期休暇中に持ち帰ったり授業でも積極的に使ったりしているため、ある程度の評価はされているが、小中学部については「わからない」が多い。学校での活用状況をもっと保護者に発信していく必要があると考える。
・地域資源の活用や地域の学校などの支援についての評価は、学部によってばらつきが出ている。実施しているが、保護者の方にはまだ、十分伝わっていない部分がある。今後も積極的に行っていくとともに、同時に保護者への情報発信の工夫もしていく必要がある。
・老朽化の対応は順次行っているものの、追いつかない現状もある。

[質問・意見等]

＜視点１　教育課程学習指導について＞
・経験が浅い教員が入ってきた時に、理解を深めるシステムに関しても明記できると良い。
・校外学習について書いてあるが、整理や検討を進めた具体的なプロセスが知りたい。
・目標に対する今年度の具体的な成果が見えにくいので、その部分が欲しい。
・個別教育計画については担任間や学部内でどのように共有をしているのか、どのような個別教育計画が有効なのか例を示していただけると良い。
・具体的に何をどうしようとしているのか、こんな人がこう変わったと成果がわかると良い。またそのような支援が他の児童生徒にも波及していくのか等知りたい。

＜視点２　児童・生徒指導・支援について＞
・心情が理解されたかどうか、具体的な方策や目標の改善につながるような書き方にする必要がある。
・不登校に関しては新たな取組を行ったのか、心理職や SSW との連携があるのであれば具体的に書いた方が良い。また相談ガイドや相談シートについて、どの部分が課題で何をどうしたのか明らかにした方が良い。
・いじめアンケートは、いじめがあるのかないのかだけでなくアンケートに答えることが難しい児童生徒に対して、全体としてどのようなアプローチをしたのか入れた方が良い。
・『主体的・対話的な学び』というのは相模原支援学校での学びにどうつながるのか、達成状況や課題がわかりにくい。
・ICT に関しては良さもあり怖さもある。スマホ等の活用の指導にも触れられると良い。
・授業での自分専用端末を効果的に活用した活用紹介に繋がると良いと感じる。

＜視点３　進路指導・支援について＞
・通学や ICT 等様々なガイドラインがあるが、進路のガイドラインもできると良い。
・地域の人に広く知ってもらう事が大切。地域への発信の強化というところも考えていけると良い。発信が連携につながるのではないか。
・学びを地域生活に生かすのは難しいと思う。具体的なところが知りたい。
・進路説明会や様々な機会が単発で終わらずに、継続するもの等整理できると良い。
・早い段階から、卒業後のイメージを持つことができるように、小学部、中学部の段階で

どのような力を付けたら良いのか、生徒や保護者、教員にできると良いのではないか。その力を身につけるために、教員もどんな支援をしたら良いのかという事が卒業生の話の中に隠れているのではないかと感じる。
・すずらんの会の活動は生徒や子どもたちの活動とどうつながったのか知りたい。

＜視点４　地域等との協働について＞
・分け隔てのない交流のためには、次に何を目標にするのかがあると思う。公民館も同じ。最終目標が何で今どの辺のステップなのか明記できると良い。
・地域との協働や連携に関しての達成状況は、学校や児童生徒がどうだっただけでなく、相手側の状況も入れた方が良いのでは。
・『居住地交流では、児童・生徒が地域の小・中学校で他者と関りながら安心して学ぶ機会となった』と書いてあるが、それは本当か？何をもってそう言えるのか？
・地域や企業が「自分たちも支援学校の子どもたちを育てている」という思いを持てるような取組ができると良い。
・『参画をねらい』とあるが、地域をどのように巻き込めたのか具体的にわかると良い。また『創造的な教育活動』とあるが具体的にはどんなことをしたのか明記できると良い。
・地域との協働や連携に関しての達成状況は、学校や児童生徒がどうだっただけでなく、相手側の状況も入れた方が良いのでは。
・橋本高校と相模原支援学校の今年度の交流はとても良くできたと感じる。この機会が交流になっているので、評価に記載できると良い。

＜視点５　学校管理学校運営について＞
・教員の研修に関しては、研修のフィードバックとして、どのような機会があると良いのか書いてあると良い。
・防災訓練に関しては達成状況の中に『総合的な防災訓練』とあるが、これはどのような事なのか。地域と学校とが防災面での情報共有の場について考えていけると良い。
・福祉避難所としての学校の機能への取り組みを入れていけると良い感染症対策の訓練については、学校は行わないのか？福祉施設だと感染症対策訓練が必須になっている。
・下校時刻の変更に関しては、教員の働き方改革には繋がったのかと思うが、子どもたちの学びの保障は大丈夫なのか、保護者の負担はどうなのか、見ていく必要はある。
・人材育成に関しては OJT だけでなく、チーム支援をしていけると良い。
・保護者が校内の老朽化に不安を感じていると結果に出ている。そのあたりをどうとらえていくのか書いていけると良い。

３　切れ目ない支援部会

●活動報告・次年度に向けて　資料 10　資料 11 参照

にじいろループに関しては本校と分教室の２種類ある。新しく加わったものは黄色い文字で記載してある。コミスクレターにも各種取り組みが書かれている。コミスクレターに関してはまだ作成中で、今後追加になるものもある。その一つとして、社会福祉協議会から連絡があり、社会福祉協議会のインスタグラムにクリーン班の清掃の様子をアップしたいと要望があったので提供したが、その話題が入る予定。

４　まとめ

校長より

本日頂いたご意見を整理していく。次年度の学校運営協議会も同じ形でお願いしたいと考えている。どうしても難しい方がいたら教えていただきたいが、次年度も継続してお願いしたい。先日校内の ICT に関する研修会で各学年から取り組んだ内容を発表した、その内容が職員室前の廊下に掲示してあるので、帰りにぜひ見ていただけたらと思う。

	会長より 　本日たくさんの課題が上がった。相模原支援学校がよりよくなっていくために学校評価をどうしたらよいか今後も考えていきたい。 **５　事務連絡** ・来年度の予定について。
会議資料	○令和６年度第３回「学校運営協議会」開催要項・学校運営協議会　委員名簿 ○令和６年度　相模原支援学校　学校評価（年間評価）（案）　資料１ ○令和６年度　学校運営に関する評価アンケート集計結果　資料２ ○令和６年度　第２回学校運営協議会　質問・意見集約　資料３ ○令和６年度　教育課程改善についての報告　資料４ ○相模原支援学校シラバス　資料５ ○教育相談活用ガイド（相談シート）　資料６ ○通学支援に関するガイドライン　資料７ ○自分専用端末活用ガイドライン　資料８ ○令和６年度　第２回・３回学校生活アンケート報告　資料９ ○令和６年度　地域にじいろループ　資料 10 ○進路だより　コンパス　資料 11 ○コミ・スクレター ○学校新聞　つなぐ ○PTA 会報　養護さがみはら ○令和５年度コミュニティ・スクール説明会アンケート集計結果（県教育委員会より） ○令和７年度学校運営協議会年間予定
有識者による評価 （第三者の視点）	・人が変わっても、方向性が変わらない、統一感と持続性が大事。相模原支援に入ってきて、どうしていくか、学校の役目が明確にされていないといけない。理念がはっきりしていること。持続性、共有、チームでやるがキーワードとなる。 ・どういうことをすれば地域の人と関われるか。目的の明確化と整理が必要。 ・抽象的な言葉が多い。具体的、客観的に理念を示す。 ・協議会のメンバーにはいろいろな立場の方がいるので、具体的に伝えてもらい、形にできるかかわりができると良い。 ・「できました」「やれています」だけではなく、「困っています」、「こんなことしたいけど、何かないか」「アイデアください」という会にしても良いのでは。 ・子どもたちのこと話してくれるとわかりやすい。みんなで考える会にしていけると良い。 ・現場の先生方が、学校運営協議会をどうとらえているか知りたい。ネガティブな評価もあるのではないか。巻き込んでいけると良い。